

廃棄物の削減

全社で省資源活動に取り組むとともに、リサイクルを推進しています。最終処分量は、1990年度の24%まで削減。リサイクル率は1990年度の7.5%に対し、2005年度は29.1%まで高めることができました。

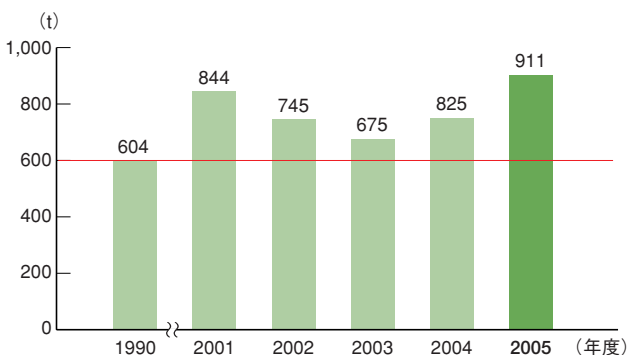
■ 分別・リサイクルの徹底に努めてきました

フジヤマ工場の取り組み

廃棄物の削減については、排出源における質・量を的確に把握するとともに、製造工程から生ずる各種廃棄物に対し分別、リサイクルを図りながら、なおかつ法律に基づき廃棄物処理専門業者に委託し、二次公害の発生しないよう適切な処置を講じています。2005年度の削減実績については、過去4年間に於いて同じ実行手段をもって、かなりの削減達成実績をはたしてきましたが、総合的に各部署において削減限界に迫りつつある状況にきていることも否めない状況であり、尚且つ、生産作業量の増加などの理由も加わり結果的には十分な削減目標が得られませんでした。しかしながらリサイクル率においては2004年度の84%に対し2005年度では99%まで大幅に進み目標を達成しました。

2006年度については、業界の取り組み（日本製薬工業協会）及び当社の環境自主行動計画の取り組みが共通な目標内容であることなどを受け、[目標内容：最終処分量を、2010年度までに1990年度を基準に20%まで削減する。] 2006年度の具体的な取り組みとして、廃棄物の最終処分量の削減に重点を置くことで「廃棄物ゼロエミッションの推進」を掲げ、2006年度リサイクル率の目標を99.7%に設定し、実行手段としては従来から実施してきた適正な分別をさらに確実に徹底を図り、工場より排出される廃棄物については、単純焼却及び埋立処分のゼロ化を目指し、限りなくリサイクル化していくことに努め、業界の取り組み及び当社の環境自主計画の目標達成を目指しながら、最終処分量の削減に繋がります。

■ 廃棄物の発生量



※廃棄物発生量の集計サイト:

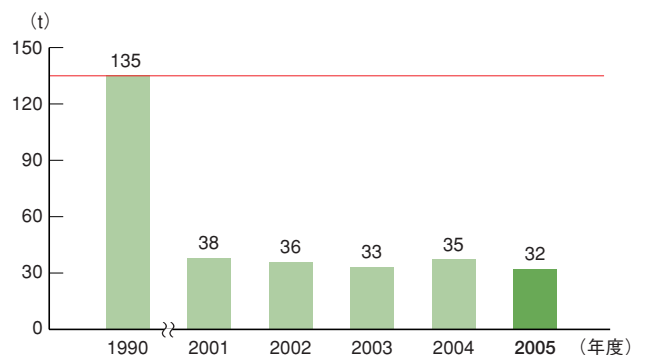
フジヤマ工場/城東工場/水無瀬研究所/福井研究所/筑波研究所(2003年竣工)/物流センター(中央・東日本)を含む

城東工場の取り組み

2005年度の活動では、城東工場における取り組みとして、最終処分量削減及びリサイクル化推進などにより、一般ゴミの削減、紙屑の削減、廃プラスチックの削減、廃医薬品の削減、各種廃棄物の排出量の削減などに取り組みました。その達成のための手段として、一般ゴミの削減のために、分別の徹底、リサイクル化の推進、食堂の紙コップの廃止、エアータオル導入によるペーパータオルの廃止などに取り組むことにより、2005年度の5%の削減目標を大きく上回る44%の削減を達成しました。紙屑の削減のために、紙屑を分別し、リサイクル可能な紙類として排出し、また、リサイクル化の推進や分別排出量の計量と記録を実施することなどにより、10%以上の削減目標を大きく上回る87.2%の削減を達成しました。廃プラスチック類の削減のために、製剤課では作業形態や作業日数を再検討し、20%の削減目標に対し24%の削減を達成しました。品質試験課では、プラスチック製の器具をガラス製器具に変更し洗浄再使用することを徹底し、7%の削減目標に対し15.9%の削減を達成しました。廃医薬品の削減のために、製剤課で製品収率のアップを徹底し、10%の削減目標を掲げましたが、これは達成できず27%の増量となりました。品質試験課では、分別の徹底、リサイクル化の推進、特に紙類と廃医薬品の分別を徹底し、5%の削減目標を大きく上回る26.5%の削減を達成しました。

各種廃棄物の排出量の削減については、分別の徹底、リサイクル化の推進、分別排出量の計量、記録を徹底し、最終処分量削

■ 最終処分量



減は1990年度比で2005年度には38%まで削減する目標を掲げておりましたが、28%まで削減することに成功しました。2006年度の活動計画としては、2005年度同様に各種廃棄物の排出量の削減、最終処分量削減を中心に削減目標数値を掲げ取り組んでいきます。

水無瀬研究所の取り組み

水無瀬研究所では、蛍光管、乾電池、紙、ダンボール、瓶のリサイクルを引き続き実施し、新たに廃油もリサイクルを行った結果、今年度のリサイクル量は112トンで、リサイクル率は38.1%となり昨年に比べリサイクル率が約13%増となりました。今年度も発生量を抑えつつ引き続きリサイクルを積極的に行います。

福井研究所の取り組み

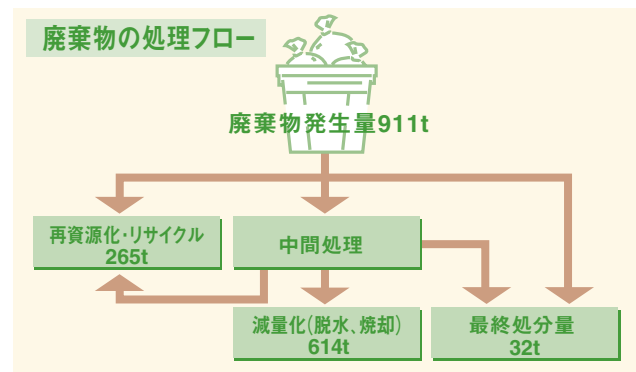
福井研究所では、紙類の分別回収を行い、紙、ダンボール等のリサイクル、及び金属類、廃油のリサイクルを実施しました。2005年度のリサイクル量は46トンで、リサイクル率は32.9%になっています。今後も発生量を抑えつつ、さらに徹底したリサイクルを進めていきます。

筑波研究所の取り組み

筑波研究所では、紙、ダンボール、プラスチック容器のリサイクルを実施しました。2005年度のリサイクル量は4.7tで、リサイクル率は17.4%になっています。

今後も発生量を抑えつつ、新たなリサイクルに取組み、リサイクル率の向上を目指します。

また、3つの研究所すべてにおいて、廃棄物処理委託業者の適正な選別と実態把握を的確に行うため、廃棄物処理委託業者を定期的に視察し、問題のないことを確認しました。



■ 事務所における紙のリサイクル

本社などにおいて、紙類の分別回収をおこなっています。3種類に分別し、それぞれPPC用紙、トイレットペーパー、ダンボール板紙に再生しています。2005年度の実績は廃棄量4.8トン、再生に回した量24.8トンとなり、資源化率は83.8%になっています。



リサイクルボックス

グリーン調達

2004年12月から全社的にココヨ(株)様の@officeという事務用品のインターネット購買を開始しました。このシステムでは、グリーンマークやエコマークに準拠した環境に配慮した事務用品のラインアップが充実しており、当社においても、これを用いてグリーン調達の推進に注力しています。事務用品購買の60%が環境配慮製品になってきています。



●エコマーク
(財)日本環境協会の認定製品であることを示します。



●グリーンマーク
(財)古紙再生推進センターが認定した古紙を原料とした製品であることを示します。



●@officeオリジナル環境マーク
エコマーク基準、グリーンマーク基準のほかココヨ社の@office独自の環境基準をクリアした商品であることを示しています。